

ともしび 平和の 灯

〔地図番号18〕

建立年月日

1964（昭和39）年8月1日

建立者

平和の灯建設委員会

設計者

丹下健三（当時・東大教授）

**形状**

台座は、手首を合わせ、手のひらを大空にひろげた形を表現している。
（高さ3m、幅13m、奥行き8m）

建立の目的

水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため。

特記事項**1 灯の点火**

全国12宗派から寄せられた“宗教の火”、溶鉱炉などの全国の工場地帯から届けられた“産業の火”が1945（昭和20）年8月6日生まれの7人の広島乙女により点火されました。

2 燃えつづける火

この火は、1964（昭和39）年8月1日点火されて以来ずっと燃え続けており、核兵器廃絶まで燃え続ける灯を、日本全国民の平和の象徴にしたいとの願いが込められています。

3 広がる平和の灯

毎年、核兵器廃絶などを訴えて、広島県内だけでなく、日本各地で平和の灯から採火した「反核平和の火リレー」が行われています。また、1994（平成6）年に広島市で開催されたアジア競技大会の聖火に点火されるなど、各種行事において平和のシンボルとして採火されています。